

問1 MQ-4は三沢基地や岩国基地では既に一時展開が実施されておりますが、嘉手納基地への一時展開と同様、住民説明会の実施はなく、行政への説明のみで配備が開始されたのか？

問2 MQ-4が一時展開する際、自治体は国からある程度余裕を設け前もって説明や事前調整を受けることはできないのか？なぜ、配備直前の唐突ともいえるタイミングで説明がなされたのか？

問4 嘉手納基地周辺住民の不安や懸念を解消するための防衛省の取り組みを伺います。

1. これまでの経緯から申し上げます、米海軍MQ-4 トライトンの、三沢飛行場や岩国飛行場への一時展開にあたり、事前に関係自治体へは御説明しておりますが、住民説明会を実施した例はありません。
2. その上で、トライトンの一時展開に先立っては、地元の皆様に対して、丁寧なご説明や情報提供を行うことが必要であると考えていたところです。そのため、日米間で所要の協議や調整を行った上で、嘉手納飛行場の関係自治体である 沖縄市、嘉手納町、北谷町や、沖縄県に対するご説明に必要な準備を進めてまいりました。
これらが整った段階で、できるだけ速やかにご説明するべきとの考えから、5月10日にご説明を行いました。
3. また、沖縄防衛局では、防衛省として説明責任を果たす一環として、広く住民の方々にもご覧いただけるよう、ウェブサイトにはトライトンの展開に関する資料を掲載しております。
4. 防衛省としては、トライトンの一時展開による地元への影響が最小限となるよう取り組んでいくとともに、引き続き、嘉手納飛行場の関係自治体と緊密に連携しながら、丁寧な御説明や適切な情報提供を行うなど、真摯に対応してまいります。

問3 防衛局から「MQ-4の運用開始後、これまで飛行に関連する重大な事故は発生していない」との説明を受けているが、日本(三沢基地や岩国基地)だけでなく、配備もしくは一時展開している国々すべてで事故等はないのか？

1. 試験段階の2018年に、米国カリフォルニア州において、飛行中にエンジントラブルが生じ、機体の自律的な判断によって、安全に基地に引き返したものの、着陸機器の故障により、着陸時に機体に被害が生じたというクラスAに分類される事故が発生したと承知しておりますが、実際の運用が開始された後、これまで飛行に関連する重大な事故は発生していないと承知しております。

※ クラスA事故とは、被害総額が250万ドル以上(2009.10~2019.9の事故については200万ドル以上、それ以前の事故については100万ドル以上)、航空機の損壊、あるいは、死亡又は全身不随に至る障害もしくは職業に起因する病気等を引き起こした事故のことを指す。

問5 嘉手納基地以外での検討はされたのでしょうか。
嘉手納基地以外への展開でも可能なのではないかと伺います。

問6 嘉手納基地へ MQ-4を配備する理由を伺います。

1. トライトンの展開先については、地理的要素や運用に必要な施設・設備、対応する現地部隊の状況等、様々な観点から、他の飛行場も含め、米側において総合的に検討した上で、日米間の調整を経て、我が国周辺における海洋監視能力の確保という目的を最も達成しうる展開先として選定されており、本年は、特に南西地域周辺海域におけるISRの必要性も踏まえ、嘉手納飛行場が選定されております。

問7 嘉手納基地周辺住民から航空機騒音被害への苦情が増加している中でMQ-9が配備され、さらにMQ-4が一時展開することは、基地負担の増加に繋がるのではないかと懸念しております。嘉手納基地における基地負担軽減の考え方を伺います。

1. 嘉手納飛行場における航空機の騒音は、周辺住民の皆様にとって深刻な問題であり、その軽減を図ることは重要な課題であると認識しています。
2. このような認識のもと、防衛省としては、航空機の騒音を軽減するための取組として、
 - 米軍に対し、騒音規制措置の順守や、土日に加え、年末年始や入学試験等の地元の重要な行事に配慮するよう申し入れを行い、
 - また、嘉手納飛行場における航空機の訓練移転を着実に実施し、
 - さらに、住宅防音工事の助成など、地域社会との調和に係る施策を講じることを通じて、周辺住民の方々の御負担を可能な限り軽減できるよう努めているところです。
3. また、トライトンの一時展開にあたっては、日米間でしっかりと協議し、騒音問題に関する地元の御懸念を伝えてきており、住宅密集地を極力回避して飛行するほか、パパーループや旧海軍駐機を使用せず、近隣住宅地から相当離れた場所に駐機されるようにしています。
4. 防衛省としては、騒音問題に関する地元の皆様の切実な声を真摯に受け止め、今後とも米側に対し、嘉手納飛行場周辺における騒音の低減が図られるよう一層の協力を求めるとともに、可能な限り地元の負担軽減に努めてまいります。

問8 MQ-4の一時展開が5月から10月までとなっているが、延長される可能性はありますか？

問10 RQ-4(グローバルホーク)が三沢基地や横田基地に定期的に展開されているように、MQ-4の一時展開が定期的になる可能性はあるか？

1. 米側からは、本年の一時展開の期間は、5月から10月との説明を受けており、10月末を超えて展開を継続する計画は無いとの説明を受けております。
2. また、来年以降の我が国へのトライトンの一時展開については、その有無を含め、様々な観点から米側において総合的に検討した上で、日米間で調整を経て決定されるため、現時点で予断をもってお答えすることは困難です。

問9 MQ-4の一時展開が2機となっているが、整備所要等による一時的な増配の可能性ありとなっているが、具体的にはどのようなケースでどれだけの期間を想定しているのか？

1. お尋ねについては、あくまで一般論として、展開した機体に整備所要が生じた場合等の補完として、一時的な増配が発生し得ると御説明したのですが、生じた整備所要の程度や運用の所要によってその期間は変動し得るため、現時点において、予断をもってお答えすることは困難です。

問11 さらなる無人偵察機等の一時展開の計画はあるのか？

1. そのような計画は承知しておりません。

問12 米海軍 MQ-4の所属部隊は？どのような指揮系統なのか伺います。また、運用する部隊の所属、部隊名、隊員を含む、管理体制を伺います。

問13 MQ-4の嘉手納基地への展開に伴い、約50名の部隊員が同基地へ配備されることに伴う事件・事故等の発生増加が危惧されますが、国の見解を伺います。

1. 嘉手納飛行場に一時展開するトライトンは、米海軍第19無人哨戒飛行隊所属であると承知しております。
2. 米側は、トライトンの展開に伴い我が国に派遣される米軍関係者全てに対し、我が国の習慣や法律について教育を行うとともに、派遣中においても、事件・事故が発生することがないように徹底して管理するとしています。防衛省から米側に対しても、トライトンの我が国への展開期間を通じ、規律やモラルを守った行動を継続的に求めていく考えです。

問14 MQ-4の嘉手納基地への一時展開に伴い、新た施設整備等はないと伺っておりますが、今後も計画予定はないのですか(三沢基地や岩国基地も同様)？

1.
 - ・ 今般の一時展開にあたり、新規の施設整備の計画はないと承知しております。
 - ・ 三沢飛行場及び岩国飛行場についても同様に、新規の施設整備はなかったものと承知しております。

問15 MQ-4の嘉手納基地への一時展開に伴い、駐機場所はどこですか？

1. 具体的な駐機場所については米軍の運用にかかわるためお答えすることは差し控えますが、パパーループや旧海軍駐機場を使用する計画はなく、トライトンの一時展開により、既存の他の航空機をパパーループや旧海軍駐機場に移動させる計画も無いと承知しております。

問16 MQ-4は偵察活動のみを目的とし、今後も他の目的で活用はしないとの認識で間違いはないか？

1. トライトンは、ISR活動を行う非武装の偵察システムであると承知しております。

問17 MQ-4に関する主な事故の発生状況(件数、発生場所、内容、原因、発生後の日米の対応)について伺います。また、安全性の担保に関して国の見解を伺います。

問18 MQ-4の事故防止対策について伺います。

1. トライトンについては、試験段階の2018年に、米国カリフォルニア州において、飛行中にエンジントラブルが生じ、機体の自律的な判断によって、安全に基地に引き返したものの、着陸機器の故障により、着陸時に機体に被害が生じたというクラスAに分類される事故が発生したと承知しておりますが、実際の運用が開始された後、これまで飛行に関連する重大な事故は発生していないと承知しております。
2. また、トライトンは、有人の航空機と同じく管制の指示に従って航行する機能等を備えており、これまで日本に一時展開された際にも安全に運用されております。
3. 我が国における実際の運用に際しては、米軍は、我が国関係当局の管制の指示に従った運用を行うこととなっているほか、飛行場の利用や安全性の確保の観点から調整を要する事項等については関係当局との間で協議の上手続等を定め、それに従って運用することとなります。
4. 防衛省としては、米軍の運用に際しては、安全面の確保が大前提と考えており、これまでも累次の機会を捉え、米側に対し、地元への配慮と安全確保について申し入れを行っており、引き続き、安全面に最大限配慮するよう求めてまいります。

問19 鹿屋基地でのオーバーラン事故発生を踏まえ、MQ-4の安全性の判断を具体的にどのように行ったのか伺います。

問20 万が一嘉手納基地でオーバーラン事故が発生した場合、基地外まで機体が逸脱しないような対策はされていますか。対策されていればそれはどのようなものか伺います。

1. 鹿屋航空基地での米空軍MQ-9の滑走路逸脱事案後、飛行再開にあたって、米軍はすべての機体・システム、操作手順等を対象に調査を行い、
 - 航空機自体の安全性に問題はなく、飛行の安全に関わる構造上の欠陥はないことを確認し、
 - 想定され得るすべての原因をカバーする再発防止策を措置したものと認識しています。

2. これは、原因に関する詳細は、保全にかかわるものであり、米軍において非公表事項とされている一方、特に基地周辺の皆様の安全・安心のためには情報提供が重要との認識の下、米側から可能な範囲で最大限の情報提供を受けたものです。

情報収集用の無人機を運用する防衛省としても、飛行再開にあたっての米軍の対応は適切なものと考えています。

3. また、トライトンは、米海軍において実際の運用が開始された後、これまで飛行に関連する重大な事故は発生していないと承知しています。

4. その上で、米軍機の運用に際しては、安全面の確保が大前提と考えており、これまでも累次の機会をとらえ、米側に対し、地元への配慮と安全確保について申し入れを行っているところ、引き続き、防衛省として安全面に最大限配慮するよう求めてまいります。

問21 MQ-4が通信障害等により制御不能に陥った場合の対策は講じられているか伺います(MQ-9との違いはあるか)？

問25 MQ-4の飛行中、機体本体に異常が起きた場合、どのような対処を行うのか伺います。

1. トライトンは、故障等の不測の事態に備えた設計がなされており、例えば複数の通信のリンク回線が組み込まれるなど冗長性が確保されています。
2. その上で、何らかの理由により通信のリンクが途絶した場合でも、機体は自律的に飛行することが可能であり、基地に帰還し安全に着陸することが可能です。
3. 更に、仮にエンジンに故障が発生した場合においても、バッテリーを作動させた状態で滑空が可能であり、万が一の際に備え、トライトンの操縦者は、人命・財産を守るため、緊急手順を執るよう訓練を受けています。
4. 加えて、我が国におけるトライトンの運用に際しては、運用の安全性の確保の観点から調整を要する事項について、日米関係当局で調整の上、要領を定めており、これに従って運用することとしております。
5. これらにより、緊急時の場合も含めて、運用の安全性が確保されるものと考えています。

問22 嘉手納基地へはMQ-9は本国で操作し、離着陸のみ嘉手納基地の管制塔でおこなっておりますが、MQ-4も同様の取り扱いですか？

問23 MQ-4の操縦はどのように行うのか伺います。

- ・機体1機の操縦に要する人数や具体的な役割
- ・遠隔操縦が可能な距離
- ・飛行中の機体の状況把握方法

1. 離着陸時は、嘉手納飛行場内に設置される機体の操縦を行うための設備から、また、離陸後の上昇により十分な高度に至った後は、米国にある施設から、それぞれ米海軍のパイロットが操縦するものと承知しておりますが、これ以上の詳細については、米軍の運用に関わることであり、お答えできないことを御理解ください。

問24 MQ-4は、他の航空機等との衝突を避けるための回避機能や対策は取られているのか伺います。

1. トライトンは、有人の航空機と同じく管制の指示に従って航行する機能等を備えており、これまで日本に一時展開された際にも安全に運用されております。
2. 我が国における実際の運用に際しては、米軍は、我が国関係当局の管制の指示に従った運用を行うこととなっているほか、飛行場の利用や安全性の確保の観点から調整を要する事項等については関係当局との間で協議の上、手続等を定め、それに従って運用することとなります。
3. 防衛省としては、米軍の運用に際しては、安全面の確保が大前提と考えており、これまでも累次の機会を捉え、米側に対し、地元への配慮と安全確保について申し入れを行っており、引き続き、安全面に最大限配慮するよう求めてまいります。

問26 MQ-9による偵察活動で十分ではないのでしょうか。MQ-9単独ではISRを担えないのか伺います。

1. トライトンの展開先については、地理的要素や、運用に必要な施設・設備、対応する現地部隊の状況等、様々な観点から、他の飛行場含め、米側において総合的に検討した上で、日米間の調整を経て、我が国周辺における海洋監視能力の確保という目的を最も達成しうる展開先として、選定されており、本年は、特に南西地域周辺海域におけるISRの必要性も踏まえ、嘉手納飛行場が選定されております。

2. その上で、トライトンは、高高度で広い地理的範囲を飛行し、信号情報や高解像度、全天候型の画像を提供することが可能であるのに対し、MQ-9は、比較的低い高度から監視対象のより詳細な画像や動画をほぼリアルタイムで提供することが可能であると承知しております。

3. このように、トライトンとMQ-9はそれぞれ得意とする能力が異なることから、トライトンの一時展開によって、同地域周辺におけるISR能力は、より一層強化されるものと認識しております。

問27 市街地上空の飛行や夜間・早朝の飛行も想定しているのか伺います。その際の被害軽減策はどのように行うのか伺います。

(市街地上空の飛行について)

1. トライトンは、我が国周辺海域での情報収集任務に従事するため、基本的に、離陸後は最短距離で洋上へ飛行し、着陸時も同様の経路を飛行することとしており、住宅密集地域上空を極力回避することとしています。

(夜間、早朝の運用について)

1. 周辺国の昨今の活動状況を踏まえ、我が国周辺における海洋監視能力の強化は、我が国の防衛、特に沖縄を含む南西地域の防衛にとって重要な役割を果たすものであり、継続的にISR活動を行うため、夜間、早朝における運用も想定されます。
2. しかしながら、トライトンは、有人機と比べて長時間にわたって継続的な飛行ができるのが特徴であり、頻繁な離着陸が行われることは想定されておりません。
3. また、その任務は我が国周辺海域での情報収集であるため、飛行場周辺での飛行は、離着陸時など、最小限になるものと想定しています。

(被害軽減策について)

1. 嘉手納飛行場における航空機の騒音は、周辺住民の皆様にとって深刻な問題であり、その軽減を図ることは重要な課題であると認識です。
2. このような認識のもと、防衛省としては、航空機の騒音を軽減するための取組として、
 - 米軍に対し、騒音規制措置の順守や、土日に加え、年末年始や入学試験等の地域の重要な行事に配慮するよう申し入れを行い、
 - また、嘉手納飛行場における航空機の訓練移転を着実に実施し、
 - さらに、住宅防音工事の助成など、地域社会との調和に係る施策を講じることを通じて、周辺住民の方々の御負担を可能な限り軽減できるよう努めているところです。
3. また、トライトンの一時展開にあたっては、日米間でしっかりと協議し、

騒音問題に関する地元の御懸念を伝えてきており、住宅密集地を極力回避して飛行するほか、パパーループや旧海軍駐機を使用せず、近隣住宅地から相当離れた場所に駐機されるようにしています。

4. 防衛省としては、騒音問題に関する地元の皆様の切実な声を真摯に受け止め、今後とも米側に対し、嘉手納飛行場周辺における騒音の低減が図られるよう一層の協力を求めるとともに、可能な限り地元の負担軽減に努めてまいります。

問28 騒音(特に夜間)による影響が危惧される場所ですが、三沢基地や岩国基地で既に一時展開されておりますが、展開中における運用状況の実績を示していただきたい。(騒音発生時刻若しくは日中・夜間・深夜早朝における騒音発生の実績は)

- ・飛行回数
- ・1回あたりの飛行時間
- ・離着陸時及び飛行中の騒音
- ・エンジン調整等地上での運用の回数及び騒音

1. トライトンの機体構造のベースとなっているグローバルホークの騒音値について申し上げますと、東北防衛局が三沢飛行場の滑走路の西側の端に設置している航空機騒音自動測定装置の測定結果によれば、70デシベル台となっております。
2. その上で、トライトンのこれまでの飛行回数、飛行時間、地上での運用状況等について、これ以上の詳細は承知しておりませんが、嘉手納飛行場における運用については可能な限り情報提供できるよう努めてまいります。

問29 既に一時展開されている三沢基地や岩国基地での騒音(特に夜間)による苦情件数は？

1. 過去に一時展開した三沢飛行場や、岩国飛行場においても、夜間、早朝における運用を行っておりますが、これまで、地元から騒音の苦情はいただいておらず、特段の問題は生じていないと承知しております。

問30 嘉手納基地上空、嘉手納基地周辺の居住地上空を周回するような飛行等が行われるのか伺います。

問31 MQ-4 が偵察活動を行う地域・海域・飛行ルートは。

1. トライトンは、我が国周辺海域での情報収集任務に従事するため、基本的に、離陸後は最短距離で洋上へ飛行し、着陸時も同様の経路を飛行することとしており、住宅密集地域上空を極力回避することとしています。

問32 MQ-4 一時展開に伴うMQ-4 本体以外の物資・人員等の配備に関する今後のスケジュールは。

1. 詳細については米軍の運用に関することでありお答えできませんが、トライトンは、5月～10月にかけて、嘉手納飛行場に一時展開する予定であり、これに伴い、パイロットや整備員等、運用に必要な要員約50名が配置されるものと承知しております。